～食料安全保障のために～

他者と違うことをし、他者とつながる国へ

篠原 信 農業研究者

しのはら・まこと／1971年大阪府生まれ。京都大学博士（農学）。有機質肥料活用型養液栽培、土壌創製技術を開発。「2012年度農林水産研究成果10大トピックス」に選出。研究のかたわら食料問題を調査、レポートをまとめる。著書に『そのとき、日本は何人養える？』（家の光協会、2022年）他。

食料もエネルギーも海外からの輸入に頼る日本は、どれだけの人口を養えるのか――。食料安全保障への危機感を、著書『そのとき、日本は何人養える？』で問題提起した篠原さんは、人々が分断を広げるのではなく、互いに役割分担をして補い合うこと、有機的なつながりを増やすことが大切だと語ります。

農家と非農家の助け合い

日本は残念ながら国土が狭く、全国民を養うだけの耕地を確保することが難しい国です。その上、化学肥料は化石燃料を燃やして製造していますし、トラクターは石油がないと動きません。化学肥料も石油も海外から輸入するしかなく、これらがなければ、日本の国土は3000万人を養うのが精いっぱいでしょう。生ごみなど有機肥料であふれ返っているように見えますが、これも元をたどれば輸入食料や輸入飼料。日本の国土だけでは、どうしても全国民を養うのは難しいです。

ですので、国内農業を盛んにしてなるべく多くの食料を生産するだけでなく、

非農業の方には輸出産業などを頑張っていただいて、食料やエネルギーを海外から輸入できるだけの稼ぎをしてもらわねばなりません。農家は国内生産を、非農家は海外からの調達を。役割分担し、互いに助け合い、補い合うことが大切です。

農産物が適正な価格で販売されることが大切（ヨーロッパの店舗より）

非農家の生活にゆとりがなければ、農家の作る食料を妥当な価格で購入してもらえません。農家の豊かさは、非農家の豊かさによって支えられます。また、国内農家の頑張りが、海外から食料を調達する負担を非農家から軽減します。

テレビ番組で、10歳に満たないヨーロッパの少女が、スーパーの野菜を手に取って語っていた言葉が印象的でした。その番組はヨーロッパ食品の価格の高さをテーマにしていましたが、その少女は「私たちがきちんとした値段で買い、それが農家の生活を支え、私たちの食べるものを作ってもらえるの」と。

自ら分断を広げていないか

ここ20年ほど、日本は生産者と消費者がいがみ合い、コメ農家と非コメ農家とがののしり合う、分断が進んできました。その結果、協力し合うのではなく力を削ぎ合う姿が目につくようになりました。

欧米では「分割して統治せよ」という統治術が知られています。古代ローマ帝国が異民族を支配する際、異民族の内部でいがみ合わせると、支配国であるローマへの憎しみが分散する、という、古くからある統治法です。

家庭菜園の野菜も支柱に支えられながら生育する

日本はかなり長きにわたって、自ら分断を広げていないでしょうか。派遣社員や契約社員など低賃金労働が増え、正社員と非正規社員は利害が合わず、分断。労働組合は機能しづらくなりました。上述したように、生産者と消費者との反目も気になります。日本はこのところ、「あいつが悪い」「あいつのせいで」を繰り返し、分断が加速しています。このために日本は協力し

合い、力を蓄えることができず、疲弊するようになっています。これで誰が得をするのでしょうか？　少なくとも、日本に住む大多数の人には、何の得にもなりません。

有機的なつながりを目指して

ここまで書くと、「団結」という言葉を思い浮かべる方も多いかもしれません。しかし私は、同じ意見に染め上げる団結という手法では、これからの時代を乗り越えることは難しいと考えています。

「他者と違うことをし、他者とつながる」ことが望ましいと思います。私たちの体には、心臓や肝臓、腎臓があり、それぞれ独自の機能を果たすことで、それでいてつながり合うことで私たちの生命が活性化するように、私たちの社会も、他者がまだやっていないことをし、それでもって他の人の手の回らないところを補完する。そうした関係性を築くのはいかがでしょうか。

違うことを恐れるどころか、違うことを楽しみ、そして違いを分断の理由にするのではなく、つながる理由に変えてしまう。こうした「有機的なつながり」を増やすべきではないでしょうか。

もし私たちが互いの違いをうまく組み合わせ、有機的につながることを目指すなら、日本はまだまだ驚くべき力を発揮するのではないかと思います。

「他者と違うことをし、他者とつながる」ことで、有機的な国に再生することを、願ってやみません。

●お知らせ

① 8月3、4日に横浜市で開催される
「家の光文化賞ＪＡトップフォーラム2023」で、篠原さんが
「そのとき、日本は何人養える？ ～食料安全保障とＪＡの役割～」と題して、
記念講演(4日午前) をします。

② 篠原さん著書
『そのとき、日本は何人養える?』(家の光協会、2022年) が好評発売中です。
次ページのチラシをご参照ください。

自給率100%の
コメも
化石燃料がないと
作れない！

定価：1,650円（税込） 四六判・並製・184頁

T1278

戦争 **資源価格の高騰** **気候変動** **円安**

ツイッターフォロワー数7万人の農業研究者が、
農業の現状と食料安全保障について分かりやすく解説

そのとき、日本は何人養える？

食料安全保障から考える社会のしくみ

小麦粉や食用油をはじめ、食品が急激に値上がりしています。
戦争や円安など要因は様々ですが、輸入で何でも安く手に入る社会は当たり前でなくなりつつあります。海外からの食料や石油などの化石燃料の輸入がストップした場合、**国内の生産力だけでは3000万人分の食料しか作れない**と著者は述べます。
「もしも」のとき、日本は国民をどう養うのか。
農業のみならず、経済・社会など多方面から食料安全保障を問い直します。
豊富なデータをもとに日本農業の現状を明らかにし、国民を養える国にするための方策を考えるきっかけに。平易な文章で、知識ゼロでもわかりやすい！

Q&Aつき

- Q. 日本だけでどれくらいの食料が生産できますか？
- Q. なぜ化石燃料と食料が関係あるのですか？
- Q. おコメよりももっと生産性の高い作物を育てればよいのでは？
- Q. 食料や石油が10倍にも高騰するということが起こりうるのでしょうか？ …など

著者紹介

篠原 信（しのはら・まこと）
京都大学博士（農学）。
研究の傍ら、食料問題を調査、「日本は何人養える？」というレポートにまとめた。著書に『自分の頭で考えて動く部下の育て方 上司1年生の教科書』『子どもの地頭とやる気が育つおもしろい方法』『ひらめかない人のためのイノベーションの技法』等

第1章｜日本は何人養える？
日本は何人養える？ 一問一答

第2章｜飢餓はなぜ起きる？
- 安い基礎食糧は「貧困の輸出」？
- なぜ先進国は安く食糧を輸出するのか？…ほか

【コラム】被災地支援はどうあるべきか？

第3章｜大規模農業はすべてを解決するのか？
- なぜ大規模農業が求められているのか？
- 日本は世界第5位の農業大国？
- 「命にかかわる」ものは安値で低迷？ …ほか

第4章｜どうして石油が食料生産に関係するのか？
- 耕地も増えない、農家も減ったのになぜ大量の食料が？
- 化学肥料なしで、世界は何人養える？
- 自然エネルギーで全エネルギーをまかなえる？…ほか

【コラム】
運輸エネルギーをまかなえたとして、雇用をどうする？

第5章｜混迷する世界と食料安全保障
- 高額学費はセレブ層製造装置？
- 「消費」して地球は壊れないのか？
- 消耗しない消費は可能か？
- 化学農薬なしに食を支えられるのか？ …ほか

申　込　欄

〈お申込はお近くのJAへ〉　JA　　御中　　年　月　日

申込書			
そのとき、日本は何人養える？ 食料安全保障から考える社会のしくみ	篠原 信・著 ●定価：1,650円（税込） 四六判・並製・184頁（54776）	部	
お名前	お電話番号		
ご住所 〒			

お支払い方法
口座振替・現金

※いただいた個人情報は本書の注文以外には使用いたしません。
※ご住所、電話番号についてはご記入いただける範囲で結構です。

JAグループ（一社）家の光協会